

# 良導絡（経絡）チャートの正常域から逸脱を示す良導絡の 興奮点および抑制点に対する熱刺激の調整効果

—とくに興奮点に対する電子式熱刺激装置（電子灸）の作用について—

○ 林 正貴、遠藤 宏、小田博久

## 目的

健康な身体を得て、それを維持するには自分自身でも積極的な取り組みが必要である。良導絡”経絡”を自宅にて自己調整することができれば非常に役立つ。良導絡を自己調整する刺激としては温灸によるものが好ましい。温灸の刺激でも良導絡は調整できるであろうか？

## 方法

対象：56.6 ±11.0 歳（M7、F7）健康ボランティア

測定：全良導絡測定（皮膚通電抵抗測定）

刺激：電子温灸器による温熱刺激

手順：測定→刺激→インターバル 30 分→再測定

統計：Excel(記述統計、仮説検定など)、StatFlex 4.2 (主成分分析)

## 結果 ①

確認すべき point (要点)

電子灸の温熱刺激より、良導絡の電流は変動するか？

変動する電流はどの程度であるか？

電流の変動と良導絡チャート上の生理的範囲との関連性は？

刺激前後の電流は生理的範囲に対して、どの方向に変動しているか？

## 結果 ②

測定の電流値よりみた場合 → とくに F 系良導絡の電流は増加した。

良導絡チャート上の電流値よりみた場合 → 電流量は全体的にやや増加した。

電流値の変動よりみた場合 → 電流値に顕著な変動はみられなかった。

良導絡平均値よりみた場合 → 顕著な平均偏差はみられなかった。

良導絡チャートの生理的範囲よりみた場合および

良導絡チャートの変動よりみた場合 → 刺激前に比し、刺激後は生理的範囲を逸脱する良導絡の数がやや減少した。

主成分分析による変動よりみた場合 → 刺激前の電流は生理的範囲より離れる方向に変動したが、刺激後は生理的範囲に近づく方向に変動した。

## 考察

1) 電子灸による温熱刺激により全良導絡の電流量が増加したことから、全身的に自律神経系が活性化されるように考える。

2) 電流値および平均偏差の変動が顕著でないのは刺激が 1 回のみであったこと、さらに各良導絡や各個人の差の影響が原因と考える。

3) 定期的に数回刺激を重ねれば、より大きな変動が期待できると考える。それにより個人差も減少するように考える。

4) 大きな変動があれば、全良導絡調整（生理的範囲へ近づく）への影響も多大になると考える。

5) これらの検証には興奮点のみならず抑制点の刺激、さらに頻回刺激後の電流についての検討が必要と考える。

## 結語

1) 電子灸による温熱刺激は全良導絡の電流量を増加させる。

2) 電流値に顕著な変動はみられないが、それには各々の良導絡および個人差の影響もあると示唆された。

3) 生理的範囲から逸脱する良導絡はやや減少した。

4) 刺激前は生理的範囲より離れる方向に変動し、刺激後は生理的範囲に近づく方向に変動した。

5) 以上より、興奮点への電子灸による温熱刺激は良導絡“経絡”調整できると示唆される。

## 謝辞

本研究は株式会社チュウオー（CHUO）ならびに倉敷芸術科学大学のご協力のもとに実施できたことを深く感謝致します。なお、本研究の結果にあたり、演者と上記の産学間において利益相反などが無いことを明記しておきます。